

### 2025 年 7 月のブルーベリー農園その 3

ブルーベリーの栽培では 6 月から 9 月上旬まで早生から晩生の品種に移行しながら実が熟し摘み取りが行われる。たくさんの援農者と障害者の事業所、西条農業高校のインターンシップなど農園に来られる人が多くなる。受け入れるための環境整備がほぼ整いまず 7 月 20 日に摘み取り援農の方たちが来てブルーベリー畑で汗をかくて頂いた。農園のある場所は東広島市豊栄町で栽培者は安芸区の自宅からほぼ毎日通っている。そこで東広島市役所に認定農業者の認可申請を昨年秋から準備して申請をしたところ 7 月に認可されたので、職業は社会的にも農業者になった。農福連携で東広島市では障害者の雇用を行うと実績に応じて工賃を半額補助する制度があるので工賃アップが可能になる。その資格が農事法人や認定農業者にあるため申請したという訳。安芸の郷を昨年 3 月に退職したのでこれで 3 回目の就職となる。

7 月 16 日（水） 里山西側の防鳥ネットを張っている  
早生のブルーベリー園を見まわり中にいた生き物は  
セミの抜け殻と



まだ小さいアマガエル。



里山のブルーベリー園の柵の周囲に咲くのはヒオウギズイセン



この日の農作業

- ① ブルーベリー畑に 2m 幅の防草シートを敷く作業  
を続けているが、破れたシートを撤去して代わり  
に 1m 幅のシートを購入して敷いた



- ② 摘み取りするときにホームベルという品種だけは  
特化して摘み取りするので目印に CD テープを巻  
く作業を行う



7 月 18 日（金） 摘み取りシーズン到来なので農園の  
家の前にテントタープを設置した



ブルーベリー畑の周囲でオオハンゴンソウの黄色い花が日を追うごとに増えてきた

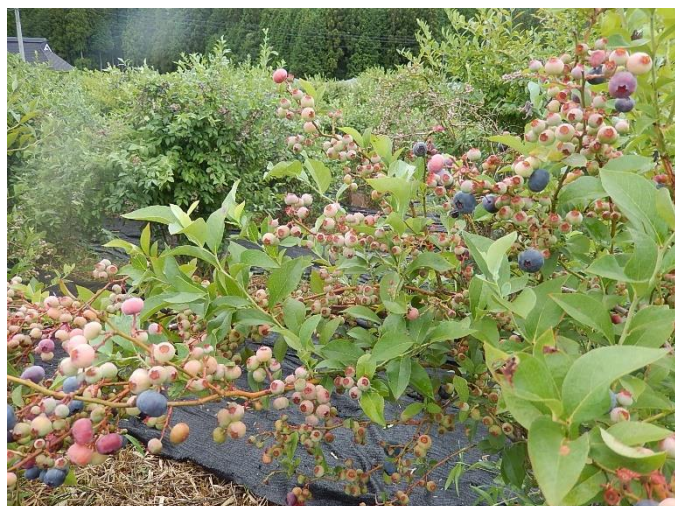


花壇のオニユリも蕾がふくらむ。次の日の 19 日には開花していた



晩生のブルーベリーのウッドワードは花をたくさんつけるが結実する確率が低い品種だが、今年は結実する実が多い（小さい実が結実していない実）

《2025 年 7 月 23 日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》



7 月 20 日（日） 摘み取り援農に 8 名、子ども 1 名が来園。暑い中休憩時間をしっかりとりながら収穫を手伝って頂き、安芸の郷の事業所にたくさん納品できた



晩生のブルーベリーのパウダーブルーという品種が熟れて甘みが増してきた。これから 8 月いっぱいまで他の品種もどんどん熟していく。22 日からは安芸の郷の摘み取り研修が農園で始まる



2025 年 7 月 23 日

社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良